



たてやま

おのがんまつち

南総祭礼研究会

2013.03 No.15



下町

館山市館山地区



大正5年の下町山車と御仮屋

自慢の山車

下町には、他の地区に比べてやや早い時期である、明治二十四年（1891）十一月七日に新造された自慢の山車があります。人形は伊弉冉尊、白を基調とした上幕が特徴的です。

装飾彫刻は繊細でみごとなものが多いです。囃子座屋根上の「牛若丸と弁慶」をはじめ、上高欄・中高欄・下高欄には、ところ狭しとばかりぎつしりと、さまざまな場面の彫刻がつけられています。また、外からは見えにくい場所ですが、囃子座後ろの二本の支柱には、迫力ある龍が今にも飛び出しそうに彫られています。

これらの彫刻は、房州後藤流

御仮屋の中で人形をあげたその姿は重厚で趣のある当時の姿を伝えていますが、その泥幕意匠や山車前面太鼓下に並べられた「館下」の長提灯が、下町の「誇り」を感じさせてくれます。



初代義光の弟子、国分産まれの彫工・後藤喜三郎橘義信四十二歳の作、脂がのった勢いを感じる逸品です。
大正五年に撮影された山車の写真が下町集会所に飾ってありました。

下町山車彫刻の紹介



牛若丸と弁慶（囃子台上部）



三段に連なるみごとな上高欄彫刻



諏訪神社の巻物を持つ唐子彫刻



さまざまな題材の繊細な彫刻

- 制作年：明治24年11月7日 ●人形：伊弉冉尊
- 上幕：龍 ●大幕：牡丹に獅子
- 泥幕：波に千鳥 ●提灯：牡丹に獅子
- 半纏：下町
- 彫工：後藤喜三郎橘義信



近藤 五